

会 議 録

1 会議名

令和3年度第3回有田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【諮問事項】

小猿屋保育園の廃止について（公開）

【報告事項】

「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について（公開）

3 開催日時

令和3年10月4日（月）午後6時30分から午後7時22分

4 開催場所

上越市カルチャーセンター 研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員： 熊木敏夫（会長）、樺沢早苗（副会長）、市川 禅（副会長）、
五十嵐里枝、池田憲雄、牛木幸一、内山幸一、荻原慶一、栗間良子、
佐藤正知、高橋秀樹、平井弘一郎、藤井英夫、山崎栄一、渡邊瑞穂
（欠席者3名）

・保育課： 小山課長、小山副課長、丸山係長

・事務局： 北部まちづくりセンター：小川係長、千田主任

8 発言の内容

【小川係長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【熊木会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：山崎委員、市川副会長に依頼

議題【諮問事項】小猿屋保育園の廃止について、担当課へ説明を求める。

【保育課：小山課長】

- ・挨拶
- ・資料No.1「小猿屋保育園の廃止について（諮問）」に基づき説明

【熊木会長】

説明に対し、質疑を求めるがなし。

意見等がないので、採決してよいかを諮り、委員全員の了承を得る。

諮問第29号 小猿屋保育園の廃止について、支障なしの方に挙手を求める。

（全員挙手）

諮問について支障なしと決する。

— 保育課 退室 —

次に【報告事項】「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

地域協議会に関する意識調査は、令和2年4月までの前期の委員を対象に、令和元年度に実施し委員活動を振り返っていただきながら、それぞれの委員の率直なご意見やお考えをお聞きしたものである。調査には委員の8割を超える313人から回答をいただいた。その後、自由記述を含めてすべての内容を確認しながら1件1件を趣旨ごとに区分集計し、調査結果を取りまとめた。今年の3月に前期と今期の委員の皆様を集計結果をお送りした。このたび、本調査によりいただいたご意見をもとに、今後の地域協議会の運営や活動に必要と思われる改善取り組み項目を整理したので、お配りした資料をもとに説明させていただく。

- ・資料No.2『「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について』、
資料No.2-2『「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について（各地域協議会において取組を検討する項目）」に基づき説明
資料で空欄となっている「今後の取組：有田区としての取組」について、次回以降検討いただきたい。

【熊木会長】

提案のあった資料No.2-2の意見交換について、会議の運営について、情報の発信についての3点にとどまらないと思うが、これを中心に協議していくということによいか。

次に、【協議事項】自主的審議事項について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

- ・資料No.3「話し合いたいテーマに関する意見一覧」に基づき説明

今回出された意見の中でも、意見交換などをしてはどうかという意見があり、「地域協議会に関する意識調査」結果を受けた取組について検討する項目と重なる部分があると思われるので、まずは、こちらの協議を進めてはどうかと考えている。

【熊木会長】

説明に対し、質疑を求める。

【高橋秀樹委員】

地域協議会の中で見ていると、地域活動支援事業の提案に対してのものや採択が主になる。テーマとして何かを求めてやるのが、過去にあまりなかった。市から出される諮問事項以外に自分たちが選んでやったものはあまりない。先ほどの説明にもあったとおり、どこかで体質を変えていかないと、地元は良くなるのではないかと。それから、人が集まる仕組みづくりと簡単にここに書いてあるが、それをどうやるのか。実際に地域協議会の中でやらないにしても、例えば、グループを分けながら、建物をどうしようとか、子どもに対してどんなことをやろうとか検討するチームを作るための仕掛けを考えていくべきだと思う。そうでないと、何もやらないでそのまま終わってしまうのではないかと。そこを十分に頭の中に入れ、少し重点をおいてやっていかないと地域協議会が何をやっているかわからないということになりかねない。

【牛木委員】

地域団体の協力が必要だという話だが、有田区に地域団体はどの程度あるのか。資料2の中にも住民組織、スポーツ団体と書いてあるが、有田地区の中にどの程度、組織や数を把握しているのか、同時にその人たちに、どういうアプローチをしているのか聞きたい。

【小川係長】

事務局で全ての活動団体を把握しているわけではない。地域活動支援事業に提案があったり、ご相談があったりした団体はわかるので、過去に地域活動支援事業の説明会などには案内をさせていただいている。今すぐ数までは出ない。

【高橋秀樹委員】

地域で活動している団体がどれぐらいあって、どういう団体があるかということから調べていかないと前に進まない。活動支援団体として認定されている団体と、サークル活動だったり、いろいろな団体があるが、それを全部調べ上げてどう連携を取っていくか。地域協議会の中でそういう連携をとっていかないと駄目だということをやらないと前に進まないと思う。

【牛木委員】

そのとおりだと思う。地域団体に対して、市も含めてこの地域協議会がどういうふう
にアプローチしているのかがわからない。認知度を高めていくということはわかるが、
例えば、この地域課題の解決には地域団体の協力が不可欠であり、その他に課題の把握、
住民組織、町内会、地域住民、他の地域協議会との連携、そこにアプローチするところ
の組織が把握されていない以上、絵に描いた餅のような気がしてならない。実際これを
どのように取り組むかということになると、その組織自体の把握から始めなければなら
ない。発言の中でわからないのは、公認されている組織と公認されていない組織がある
というのは、どういうことか。

【高橋秀樹委員】

公認、公認でないというのは、例えば、支援団体とって、ここで何かをやるときに、
無料で借りられるなど、ある程度の市からの予算をもらって動いている組織と、名前は
知っているがどんな活動しているかわからないような組織と言われるものがある。それ
は先ほど言ったとおり、どんな団体があるかを全部調べあげないとわからない。実際に
意見を聞いて、話をするにしても、カラオケ、絵画、陶芸、テニス、卓球をやっている
サークルがあるが、それは公認と言うべきかどうかもわからない。それも含めて、どう
いう団体があって、どのようにやっているかを、まず調べることからスタートしないと
いけない。そうしないと、資料に書いてあることを皆さんで展開するのは無理だと思う。
どのように、情報取りとかそういう団体を調べ上げていくか、地域協議会から仕掛けて、
こんな組織を作ったらどうか、こんなふうにとったらどうかということ仕掛けていく
のが、まず、スタートだと思う。

【熊木会長】

見えない組織といかにコンタクトをとるか。見えないものにコンタクト取れないとい
うのが現状なので、ランク分けしないと駄目だと思う。大きな網掛けの中で、団体はど

のくらい、どんな団体があるかくらいのレベルで始めないと、なかなか難しいと思うので、そこからスタートでどうか。

事務局が調べられる範囲でリストアップしてほしい。皆さんも自分の知る範囲で、リストアップして、各々持ってきていただければ会議として進んでいくと思うのでお願いしたい。その資料に基づきながら、意見交換をしていきたいと思う。

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

今回は、地域協議会に関する意識調査結果を受けた取組の協議をお願いしたい。こちらで、活動団体をリストアップさせていただき、開催日につきましては、会長と日程を調整して、決まり次第お知らせしたい。

【熊木会長】

他に何かないか。

【小川係長】

地域活動支援事業の採択事業のうち、有田地区体育・レクリエーション協会から、有田地区体育大会について、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止することとしたという報告があった。届出書類を提出いただき、これまでに用具費等の準備経費がかかったということで、変更申請として30万円弱が減額になって、20万円ぐらいの補助額となっていることをご報告させていただく。

【熊木会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。